

デジタル・アーキビスト二種資格委員会作業部会（仮称）議事録

出席者 後藤 谷口(知) 三宅 楓 林(知) 岩田 林(文) 久世 亀山 片桐 佐藤
安藤 谷口(幸) 菅井 松野

期日 平成17年4月11日(月)

場所 岐阜女子大学文化情報研究センター

協議

1 デジタル・アーキビスト二種に関する講習会の経緯

- ・一般 3月8日～20日 大垣市(ソフトピアジャパン)、高知市、宜野湾市、岐阜市(文化情報研究センター) 札幌市の5カ所で開催し、合計99人が受講
この他に大学生7名(一種)受講

2 高校における試行試験の経緯

- ・高校生 3月22日～24日 講習と試行試験 各務原東 羽島 大垣商業 多治見工業の各高校で実施 合計165人が受講 受検
- ・受検人数からみて生徒の興味・関心が高い
- ・この試行では文化論・知的財産権、情報カテゴリー等に係る分野があまり網羅されていない。

3 高校生、大学生、司書・学芸員、社会教育主事、企業、教員、市町村等の文化施設職員、その他の人に関する今後の課題

- ・同一の歩調ですすむ。
- ・高校生であっても特別に扱うのではなく、分野についての問題選択をさせ、一般的な検定試験に挑戦させるという意味で同様に扱えばよい。
- ・基本的には以下の3つの分野についての知識、技能などの能力をもつことが必要
 - ① デジタル技術に関する能力
 - ② 文化論、地域文化、などに関する知識、デジタル・アーカイブ化能力
 - ③ 情報と人権、法律関係の実際(個人情報保護、知的財産権、著作権等)
- ・一般の講習受講者は現時点で情報教育担当者、デジタル・アーカイブ担当者を対象としたので①はクリアしており、②③は時間的にはすくなくはなかったが、今回の講習会の中で扱った。
- ・高校生の受講者は試行試験を合格しても②については学校で学習していないのではないか。
- ・高校生については試行試験合格とこれから計画する夏季研修会の参加でもって資格を認めることとする。

4 試行試験の合格レベルについて

- ・今回の試行試験は50%の得点をめどに合格とする。ただし、学校による差を配慮する。

5 試験申し込みと合格通知

- ・学校による団体申し込みで行い、結果(正答率、得点 分得点分布等の統計データを学校に返し、その取り扱いは当該学校に任せる。
- ・申し込み時に必要データ様式は 氏名 住所 生年月日 (電話、性別は必ずしも必要ではない 要検討)
- ・合格証は各個人に返すのが良いのでは(要検討)

6 高校生に対する文化情報の研修会を開催する。

8月2日

9時30分～12時 デジタル・アーキビスト概論 谷口先生
1時～4時 持田先生 三宅先生

8月3日

9時30分～12時 情報カテゴリー先生
1時～4時 アーカイブの提供の仕方としくみ 井上 透先生

注 研修会の目的、案内の作成等は別紙資料参照